



若松 容子 隊員 (32歳)

(派遣先：ザンビア共和国)

大学院卒業後、食品メーカーに就職し、技術職として5年製造・製品開発に関わる。平成27年9月から青年海外協力隊員として、ザンビア共和国で活動開始。食品メーカー技術職としての経験を生かし、栄養指導改善や収入向上につながる商品開発や技術開発などをサポート。今年12月まで活動予定。



3人の市出身者が 世界で奮闘中!



青年海外協力隊
レポート

青年海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency・通称「JICA」) が昭和40年から行っている海外ボランティア制度のことです。

「自分の持っている技術や経験を生かしてみたい」と考える、20歳から39歳までの人を、アジア・アフリカ・中南米・オセアニア・中東地域の開発途上国に2年間派遣し、現地の人々と同じ言葉を話し、ともに生活・協働しながら、派遣先の国づくりのために活動しています。

活動分野は、コンピュータ技術、小学校教育、理科教育、野菜栽培、看護師、感染症・エイズ対策、障がい者・児支援、自動車整備、電気通信、品質管理、コミュニティ開発、青少年活動、スポーツ全般など、120以上の多岐にわたります。

4月末現在で、42,599人が88か国で活動してきたほか、現在は、1,855人が69か国で活動しています。鹿屋市からは、これまで34人が26か国で活動し、現在は若松容子さん、盛重洋志さん、下道真人さんの3人が奮闘中です。

今後、世界の人口は増加することが予想されており、それに伴い、海外での国際協力・国際貢献の機会が増えてきます。文化や言葉などの違いがある中で、3人の青年海外協力隊員が、現地の人と一緒に課題を解決し、前向きに過ごしている様子を、メッセージや写真を通して紹介します。

なお、青年海外協力隊に興味のある人は、JICAデスク鹿屋島 (☎099-221-6624) までお問い合わせください。

鹿屋市地域活力推進課 (3階) ☎0994-31-1147



▲日本のお菓子「かりんとう」の作り方を教える若松さん (左写真・中央)。右写真は、収入を得るための販売用に袋詰めされたかりんとう

私の家には水道が無く、夕方に井戸水をくみに行くことが日課となっており、近所の子どもの水くみを手伝って来ます。一度、お礼にお菓子をあげたところ、毎日のようにやってくるようになりました。水くみを手伝った後、モジモジしながら照れくさそうにお菓子をもらえるのを待っている様子は、何とも言えずいじらしく可愛いです。

活動の中で安らぎがありますか

活動開始当初は、参加者の女性たちが時間を守らないことに腹を立てていました。ですが、現地の女性たちの中には、活動場所から7kmも離れた険しい山道を徒歩で片道3時間かけて来てくれる人もいて、それを知ったときは、ザンビアの女性は、働き者だと思いました。洗濯は家族全員分の衣類を全て手洗い、調理は火おこしからです。それ以来、自分の尺度で物事を測ろうとせず、相手がどのような環境にあるのかということも考えるようになりました。

日本との違いを感じたことはありませんか

子どもたちとのやり取りは、私にとって一日の仕事終わりの安らぎの時間となっています。

若い人に向けてメッセージをお願いします

これまでの人生、ザンビアでの活動を通して、「どのような道でも最善を尽くせば必ず道は拓ける」ということを学びました。若い皆さんには、自分に納得のいく人生を歩んでいってほしいです。人生は一度きりですからね。



▲水くみの様子。年齢や性別を問わず、一生懸命働く



▲食品を虫や動物などから守るために「食品乾燥ネット」をみんなで作る



INFORMATION

ザンビア共和国

◎国旗

- ◎面積=約752,610km² (日本の約2倍)
 - ◎人口=約1,621万人 (日本の約0.13倍)
 - ◎首都=ルサカ
 - ◎民族=トンガ系、ニャンジャ系、ベンバ系等73部族
 - ◎言語=英語、ベンバ語、ニャンジャ語、トンガ語
 - 鹿屋市からルサカまでの直線距離=約12,100km
 - 主な産業=トウモロコシ、砂糖、タバコ、綿花、銅、観光
 - その他=アフリカ大陸南部に位置する内陸国。乾季と雨季に分かれており、アフリカの中でも比較的穏やかな気候で住みやすい
- ※地図、国旗、◎の項目については、外務省ホームページから引用